

交流及び共同学習のススメ

居住地校交流に関する8つの実践例等

令和2年3月
群馬県教育委員会
特別支援教育課

目指すは「共生社会の実現」

群馬県では、第2期群馬県特別支援教育推進計画において、基本目標として共生社会の実現を掲げ、交流及び共同学習の推進を目指しています。

基本目標5 共に生き、共に学ぶ環境の実現



学校における交流及び共同学習の充実を図り、障害のあるなしにかかわらず、共に触れ合い、共感し合うことを通して、すべての子どもたちが共に生き、共に学ぶ地域社会の実現を目指していきます。



共に生きる社会の実現を目指し、特別支援教育に対する理解啓発に努めていきます。

交流及び共同学習を行う教育的意義

交流及び共同学習は、障害のあるなしにかかわらず全ての児童生徒にとって、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ重要な機会であると考えます。

条約や国内法においても以下のように位置づけられています。

障害者の権利に関する条約

第二十四条 教育

- (b) 障害者が、他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会において、障害者を包含し、質が高く、かつ、無償の初等教育を享受することができること及び中等教育を享受することができること。

障害者基本法（平成28年8月改正）

第16条

- 3項 国及び地方公共団体は、障害者である児童及び生徒と障害者でない児童及び生徒との交流及び共同学習を積極的に進めることによつて、その相互理解を促進しなければならない。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）

第1章 総則 第5 学校運営上の留意事項

2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

- イ 他の小学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

※ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）等にも同様に示されています。

このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある児童生徒にとっては、様々な人々とともに助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるとともに、障害のない児童生徒にとっては、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながります。

交流及び共同学習の主な種類

交流及び共同学習の形態は、主に以下の4つがあります。

【居住地校交流】

特別支援学校に在籍する児童生徒が、居住地の小・中学校等において、在籍する児童生徒と一緒に活動し、ふれ合う交流及び共同学習の形態。

【学校間交流】

幼稚園、小学校、中学校、高等学校等と特別支援学校が、行事等を通じて相互に相手校を訪れ、学校全体、学年、学級等の単位で行う交流及び共同学習の形態。

【地域交流】

特別支援学校または小・中学校に在籍している子どもたちが、地域の人々と行事等を通じて行う交流及び共同学習の形態。

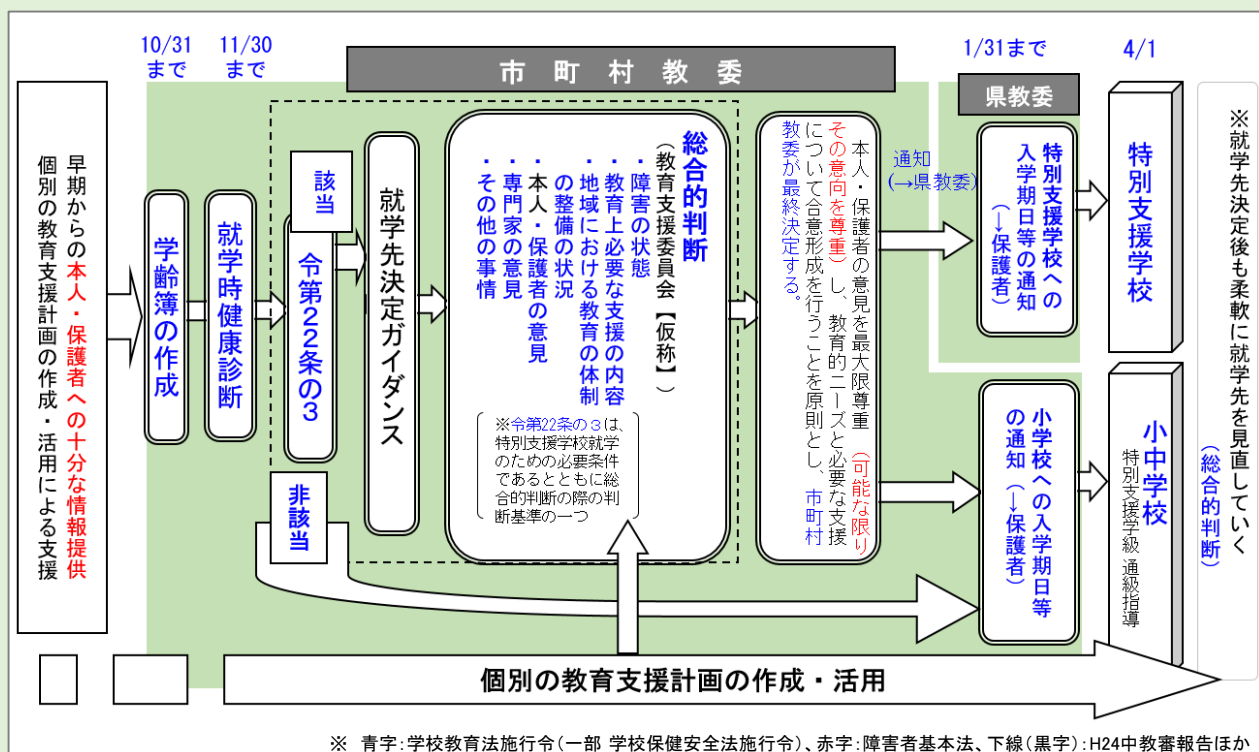
【学級間交流】

校内の、通常の学級の児童生徒と特別支援学級の児童生徒が行う交流及び共同学習の形態。



就学（学びの場）に関する考え方

平成25年に学校教育法施行令が改正され、就学に関する考え方が大きく変わりました。就学規準（第22条の3）に該当する障害のある児童生徒は原則特別支援学校に就学するという従来の仕組みを改め、障害の状態等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みへと改正されました。これにより、居住地校交流は、より一層重要であると考えられるようになりました。以下の図は、改正後の仕組みを示したものです。



※ 青字：学校教育法施行令（一部 学校保健安全法施行令）、赤字：障害者基本法、下線（黒字）：H24中教審報告ほか

交流及び共同学習の展開と工夫のポイント

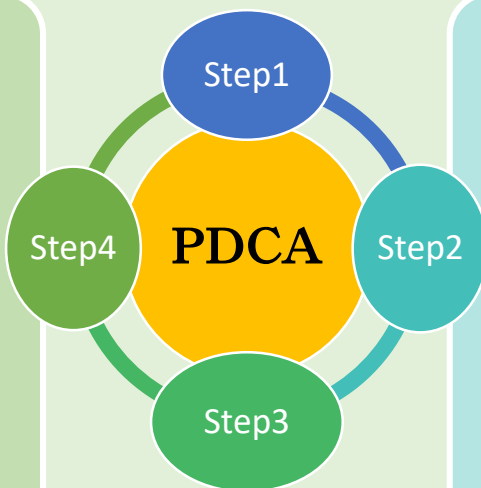
PDCAサイクルにより、より良い交流及び共同学習を目指しましょう。

【Step1】指導計画を作成する

- 双方の児童生徒にとって無理のない計画を立てましょう。その際には、教育課程上の位置づけ、評価計画、学習の形態や内容、回数、時間、場所、両者の役割分担、協力体制等について、事前に検討することが大切です。
- 年間の行事計画に位置づけ、学校全体で見通しを持って進めましょう。
- 特別な教育的支援が必要な児童生徒の指導内容・指導方法、配慮事項等については、「個別の指導計画」に明確に位置づけましょう。

【Step4】事後学習と評価を大切に して、継続性・発展性のある 交流及び共同学習を目指す

- 児童生徒にとっても、お互いのよさを理解するために実施後の振り返りを行うことが大切です。
- 実施後も、例えば、手紙や作品交換を行うなど活動を工夫してつながりを保ち、交流及び共同学習の継続や発展への意欲を高めるようにしましょう。
- 保護者や本人の了解のもと、学級通信や学校通信等を通じて、当日の活動の様子や児童生徒の感想等学習の成果を積極的に発信しましょう。



【Step2】事前学習を工夫する

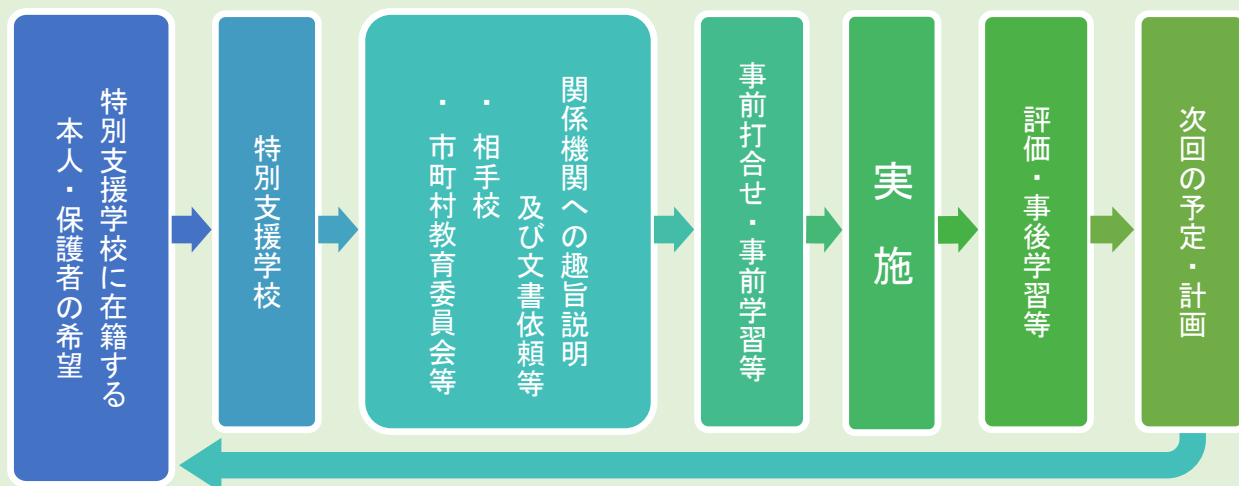
- 関係する教職員や組織の担当者が、「個別の指導計画」を活用して、目標、指導内容、指導方法、配慮事項等について共通理解しましょう。
- 特別支援学校の教員が小・中学校等へ出向いて、学校紹介や特別支援学校の児童生徒への接し方等について説明するなどして、事前に理解を深めることも大切です。
- 可能な範囲で、準備の段階から双方の児童生徒が運営等に参加できる機会を設けましょう。

【Step3】児童生徒が主体的に活動できる環境を整える

- 障害のある児童生徒でも無理なく取り組めるような活動内容を工夫しましょう。
- 児童生徒同士のかかわり合いがより深まるよう、集団の大きさやメンバー構成などを工夫しましょう。
- 教職員等関係者は、望ましいかかわり方の見本を示したり、児童生徒の主体的なかかわりを促す言葉かけ等をするようにしましょう。
- すべての児童生徒が安全に活動できるよう学習環境に配慮しましょう。

居住地校交流の手続きの例

居住地域における交流及び共同学習を実施する際、各関係者と連絡・調整をしましょう。



ブラインドサッカー体験やバイオリン演奏等を通じた居住地校交流

- 1 在籍校：県立A特別支援学校
- 2 対象者：中学部3年
- 3 相手校：中学校
- 4 教育課程上の位置づけ

在籍校：総合的な学習の時間、数学、英語、理科、体育等
相手校：総合的な学習の時間、数学、英語、理科、体育等

5 実施内容

① 事前の打合せ

1年時に、保護者に対して、参加・目的の確認した後、学年主任・担任が相手校に出向き、校長・学年主任・担任に面会。本生徒の日常生活や学習の様子を説明し、交流時の配慮等についてお願いした。3年時には、在籍校の副担任（引率者）が相手校の学年主任との間で電話やFAXにより、日程や学習内容に関する連絡を各6回程度行った。

② 年間の計画

1年時及び2年時は各学期に1回計画し、実施した。3年時は、1・2学期に各1回計画した。

③ 事前指導

交流当日の日程や持ち物の確認、当日の相手校での挨拶練習等を行った。

④ 当日の活動

数学・英語・理科・総合的な学習の時間・体育の授業を行い、授業中は、在籍校では体験できない大人数の活気ある雰囲気の中、臆することなく積極的に挙手・発言できた。総合的な学習の時間には、3学年の生徒全員の前で本生徒が得意とするピアノとバイオリンを演奏した。緊張していたものの、熱心に聴いてくれていた雰囲気を感じ取り、それを嬉しく感じている姿が見られた。体育の授業では、盲学校で用いているブラインドサッカーの鈴入りボールを持参し、両校の生徒で競技の体験をすることができた。

⑤ 事後指導

- ・ 相手校での学習内容を各教科の授業や学級活動に生かせるように支援や指導を行った。
- ・ 相手校の生徒に宛てて点字で礼状を書いて送付した。
- ・ 相手校の教室の廊下壁面には1学期に送った点字の手紙が掲示されており、学年を挙げて、交流の機会を待っていてくれた様子を感じられた。



国語や社会等の教科学習から部活動までを通じた居住地校交流

- 1 在籍校：県立B特別支援学校
- 2 対象者：中学部3年
- 3 相手校：中学校
- 4 教育課程上の位置づけ

在籍校：国語、社会、数学、理科、英語、保健体育等
相手校：国語、社会、数学、理科、英語、保健体育等

5 実施内容

① 事前の打合せ

相手校の学年主任と電話で数回打合せを行った。

② 年間の計画

学期に1回の交流を計画したが、3学期については受験時期であるため、1・2学期の2回とした。

③ 事前指導

当日の過ごし方や登下校の方法を確認した。自己紹介時にどのような話し方をすると聞き取りやすいのか、自分の聞こえについて説明を考え、練習を行った。

④ 当日の活動

- ・ 第1回目は、自宅から徒歩で登校後、校長先生へのあいさつ、職員室で自己紹介をした。朝読書の時間から学級に入り、一緒に授業を受けた。放課後は部活動に参加し、終了後職員室であいさつをして、徒歩で下校することができた。
- ・ 第2回目は、1回目と同様に徒歩で登下校し、朝読書の時間から学級に入り、一緒に授業を受けた。休み時間は合唱コンクールに向けて練習をしていたので、見学をすることができた。

⑤ 事後指導

交流後、それぞれについて振り返りを行い、授業中にどのくらい先生の話聞き取ることができたか、クラスの生徒とどのようにコミュニケーションをとったかなど、感想を記入し、まとめるとともに、次回への期待感を高めることができた。

	1	2	3	4	5	6	放課後
第1回目	国語	社会	英語	数学	保健体育	理科	部活動(卓球)
第2回目	社会	理科	数学	英語	音楽	保健体育	下校

遠隔AIロボット「KUBI（クビ）」を利用した居住地校交流

- 1 在籍校：県立C特別支援学校
- 2 対象者：小学部6年
- 3 相手校：小学校
- 4 教育課程上の位置づけ
在籍校：国語及び自立活動 相手校：国語
- 5 実施内容

① 事前の打合せ

相手校と、電話やメールで、KUBIを使用することや、時間、内容、参加方法について確認した。病院とも、交流の方法や時間について、体調や安静時間（休憩時間）、病室で交流を行う際の留意点等について確認した。

② 年間の計画（略）

③ 事前指導

KUBIの使い方の学習、授業のねらい、国語（回文）のプリントの予習、座席（友達の位置、KUBIの置かれる位置等）の確認をした。

④ 当日の活動

休み時間に自由交流を行い、その後、回文を題材とした国語の授業に参加した。休み時間では、友達が20人近くKUBI+タブレットの近くに集まり、児童へいろいろと話しかける様子が見られた。授業が始まると、タブレットを通して教師の声が良く聞こえ、黒板の大きな文字を読むことができた。相手校の教師が該当児童へ意図的に声をかけ、児童がそれに答えるので、クラス内での児童の存在感が感じられた。該当児童が正答すると、クラスの友達が声を上げて喜ぶ姿が見られた。グループでの話し合い活動にも参加でき、友達と意見交換ができた。KUBIを動かして、友達の活動の様子を臨場感をもって見る事ができた。

⑤ 事後指導

KUBIを使った交流に関する振り返りを行った。相手校（前籍校）に戻る際の心配なこと等の確認もして、安心して転学できるように指導・支援を行った。



KUBIについて
タブレット端末を用いたテレビ電話を支援する機器。KUBIにタブレットを乗せ、KUBIを遠隔地から動かすことで、見たい方向を見ることが出来る。

KUBI
+タブレット

KUBI+タブレット



相手校



在籍校

丁寧な事前指導と準備から当日の活動へつなげた居住地校交流

- 1 在籍校：県立D特別支援学校
- 2 対象者：小学部1年
- 3 相手校：小学校
- 4 教育課程上の位置づけ 在籍校：生活単元学習 相手校：音楽等
- 5 実施内容

① 事前の打合せ

対象児童は、本年度から居住地校交流を開始したため、3回に分けて相手校に電話連絡をし、段階を踏んで打合せを行った。

② 年間の計画（略）

③ 事前指導

本児が見通しをもって参加できるように、1か月前からカレンダー、写真カード等を作成し、段階を追って、計画的に伝えた。1週間ほど前からしおりと予定カードを利用し、詳しく確認し始めた。保護者とも連携して準備することができた。当日に行う自己紹介の仕方の学習を毎日行った。また、当日の音楽の授業で取り組む鈴やトライアングル等の楽器に触れたり、「さんぼ」の曲を聴いたりした。

④ 当日の活動

余裕をもって相手校に到着し、校庭のブランコ遊び、校長室での挨拶、校内探検等をする時間を設定して、ゆっくり着実に環境になじめるよう配慮した。3校時、音楽の授業に参加した。まずカードを使って名前と好きな動物を言葉で伝え、自己紹介をすることができた。学習を積み重ねてきたことで、大勢の前で自信をもって言うことができていた。次に、「さんぼ」を歌いながら教室内を行進した。友達の中を楽しく歩いて回る様子が見られた。その後「おちゃらかほい」等の手遊びを行った。隣の児童と向かい合い、教師の手本をまねながら、友達と手を繋いだり手の平を合わせたりすることができた。最後は、「きらきらぼし」の曲でトライアングルと鈴の楽器演奏を行った。どちらの楽器も、担当箇所積極的に音を鳴らすことができた。最後に「さようなら」の挨拶をすると、友達が寄ってきて積極的に挨拶を交わす様子が見られた。本人はとても楽しく過ごせたようで、帰り際、名残惜しそうに校庭で遊ぶ友達を見つめる姿が見られた。

⑤ 事後指導

しおりと写真を見せて、振り返りを行った。しおりを家庭に持ち帰ったところ、家庭でもしおりを活用して、交流活動について一緒に振り返ってくださった。クリスマスカードを兼ねたお礼の手紙を作成し、交流学級に届けた。



実践例
5

ロウの過熱と冷却実験（理科）等を通じた居住地校交流

- 1 在籍校：県立E特別支援学校
- 2 対象者：中学部1年
- 3 相手校：中学校
- 4 教育課程上の位置づけ 在籍校：理科等 相手校：理科等
- 5 実施内容

① 事前の打合せ

相手校へ出向き、肢体不自由のある生徒に関する配慮等の情報交換と希望する活動内容、およびその日程等話し合った。その他に、電話連絡3回、FAXによる連絡4回を行った。

② 年間の計画（略）

③ 事前指導

プロフィール作成や当日の日程、学習内容、準備する物について知り、確認できるようにした。

④ 当日の活動

5校時の理科では、ロウの過熱と冷却実験を通して、物質の状態の変化を観察し、実験器具の使用方法を学習した。ガスバーナーの扱い方は以前に学習していたので、使用方法を理解していた。友達が器具を操作する様子を見て、時には「空気の調節ネジだけを回すんじゃない？」と声をかける様子が見られた。また、計測値を記録する役割を自ら申し出るなど、協力して実験に参加していた。

6校時の理科も、ロウの過熱と冷却実験を通して物質の状態の変化を観察し、その様子をワークシートにまとめることができた。同じ実験内容を2度学習する機会を設定したことで、見通しを持ち、落ち着いた様子で実験に参加することができた。友達の実験準備の様子を見守りながら、必要に応じて次の手順を伝えていた。溶けたロウが冷却により凝固する様子を観察し、「（ピーカーの）周りが白くなってきた」「（凝固したロウを観察して）真ん中がへこんでいる」など友達とその様子を共有しており、状態変化に応じて体積が変化することを理解している様子だった。

その他、技術の授業や給食、昼休みにおいて交流を図ることができた。

⑤ 事後指導

居住地校交流における活動を振り返るとともに、お礼状を作成し、相手校に送付することができた。



実践例
6

文化祭における絵手紙講座の体験等を通じた居住地校交流

- 1 在籍校：県立F特別支援学校
- 2 対象者：中学部2年
- 3 相手校：中学校
- 4 教育課程上の位置づけ
在籍校：総合的な学習の時間
相手校：特別活動
- 5 実施内容

① 事前の打合せ

電話で本校生徒・保護者の希望を伝え、交流内容の概要について話し合い、詳細な打合せを行う日程も決めた。相手校での打合せでは、本校生徒の実態等について詳しく伝えた。当日の日程、持ち物、服装について確認し、当日の詳細な動きについて話し合った。2学期の文化祭で交流することに決定した。

② 年間の計画（略）

③ 事前指導

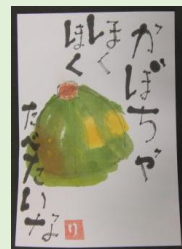
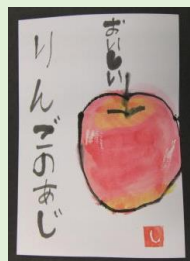
前年度の交流に参加している写真を見ながら、その時のことを想起させるような話をした。当日の流れについて本生徒が分かるように説明した。

④ 当日の活動

文化祭午前部の部と給食、午後部の部に参加した。午前部の部では、絵手紙講座に参加し、秋の素材を見ながら講師のアドバイスを聴いたり周りの様子を見たりして熱心に取り組み、絵手紙を2枚完成させた。また、周囲の生徒の描く様子を見学したり、相手校生徒に聞きながら道具の片付けを行った。給食は、2年生のホールの一角に場所を設けてもらい、女子生徒4名と一緒に会話をしながら、にこやかな表情で食べることができた。午後部の部では、合唱コンクールを落ち着いて鑑賞することができた。

⑤ 事後指導

翌日の休み時間等に生徒と担任で交流の振り返りを行った。また、絵手紙講座で学んだことを生かし、美術の時間にクラス全体で絵手紙を描いた。素敵な作品が完成し、満足そうな表情を見ることができた。



実践例

7

輪投げやボウリング、釣りゲーム等を通じた居住地校交流

1 在籍校：県立G特別支援学校

2 対象者：小学部3年

3 相手校：小学校

4 教育課程上の位置づけ

在籍校：生活単元学習

相手校：生活単元学習

5 実施内容

① 事前の打合せ

電話で事前打合せを行った。日時の調整や児童の実態、当日の流れ、留意事項等について話した。

② 年間の計画

特別支援学級との交流を各学期に1回ずつ行うこと、間接交流と直接交流の両方を行うことを決定した。

③ 事前指導（略）

④ 当日の活動

輪投げ、ボウリング、釣りゲーム、コマ、地域のかかるた等を行った。輪投げでは、最初は輪を投げるのが難しかったが、友達がするのを見てやり方を理解したらしく、上手に投げられるようになった。ボウリングでは、自分から声をかけてボールをもらうなど、コミュニケーションを取ることができた。釣りゲームでは、1回目に8匹、2回目に9匹を釣ることができ、釣れるたびにとても喜んでいる姿が見られた。地域のかかるたでは、意欲はあるものの速さについていけず、札を取ることができなかった。しかし、みんなが札を取る雰囲気を楽しんでいるようで、嬉しそうな表情をしていた。

⑤ 事後指導

図工で制作した絵と、学期を振り返り「がんばったことベスト3（スリー）」をまとめた新聞を送付し、間接交流につなげた。（毎学期実施）



実践例

8

相手校の児童が考えたレクリエーション等を通じた居住地校交流

1 在籍校：県立H特別支援学校

2 対象者：小学部6年

3 相手校：小学校

4 教育課程上の位置づけ

在籍校：音楽、生活単元学習等

相手校：音楽、学級活動等

5 実施内容

① 事前の打合せ

まず電話で日程、大まかな交流内容を話し合った。1か月前には、複数回連絡を取り、交流のねらい、具体的な内容、配慮事項について、電話やFAXにて詳しく確認した。

② 年間の計画

各学期1回、計3回実施する。

③ 事前指導

昨年度の交流の写真を見せながら、交流日、活動内容を説明した。自己紹介のときに、頑張っていることを伝えようと提案、みんなに伝わりやすい話し方、声の大きさを考える学習にも取り組んだ。相手校の児童あてに手紙を書く学習にも取り組んだ。また、指揮の仕方や曲を事前に学習した。プレゼントのアイロンビーズの花を人数分作った。

④ 当日の活動

相手校の児童が本児のために考えてくれたレクリエーションを行った。「ぐーちよきぱー」では、ルールの理解が難しかったが、多くの児童が順番にルールを説明したり、自発的に手を繋いでくれたりして、笑顔で参加することができた。指揮の学習では、「ハンガリー舞曲」のリズムの変化に合わせて指揮をした。事前指導の成果もあり、堂々と発表できた。ケーキ作りでは、自ら作業をやりたいと気持ちを伝えるなど意欲的に参加していた。

⑤ 事後指導

交流中の写真を見ながら振り返りを行い、次回への意欲を高めることができた。

